

# 訂正箇所一覧

資料2

No	該当ページ	項目	内容	回答案
1. 全体を通して				
1	-	タイトル	「現行」の白書・計画と「改定」する白書・計画を区別できるようにする。	「府中市インフラマネジメント白書2017年度版」と「府中市インフラマネジメント計画2017年度版」と改めた。
2. 資料3について				
2-1	P4	計画の体系	体系を見直すこと。	下水道マスタープランの位置づけを変更した。 計画も合わせて変更している。
2-2	P19	舗装健全度の判断基準について	舗装健全度の判断基準を統一して記載すること。	P19の該当表を一部修正した。
2-3	P234	橋りょうの補修更新費の予測条件について	策定中の橋りょう長寿命化修繕計画と考え方を合わせること。	橋りょうの種類、延長によって考え方を分けていたが、全ての橋りょうを対象に架け替えた場合の試算に変更した。
2-4	P249	公園トイレの設置単価	設置費用を見直すこと。	近年の設置実績より1基あたり1,600万円に変更した。
2-5	P256	人件費	下水道に係る人件費について。	下水道に係る人件費については、下水道マスタープランの見通しに既に含まれているため、削除した。
2-6	P256	将来経費の予測額全体について	「2-3」、「2-4」、「2-5」の変更による金額を算出すること。	「2-3」、「2-4」、「2-5」の変更により、平均化する場合の年間経費と実績額の比較による過不足が、下水道を除く場合は、8.78億円となり、下水道を含む場合は、34.08億円に変化した。
2-7	P275	「5. インフラマネジメントの関心」の構成について	「5. インフラマネジメントの関心」で説明されている現状に対して、市が受け止めている判断を記載する箇所がないため、「白書」の構成を検討すること。	P275に、「5. インフラマネジメントの関心」で明らかになった市民の関心の低さに対して、積極的に広報することを記載した。
3. 資料4について				
3-1	P2	「歳入の確保」について	ふるさと納税の制度を利用することが、箇所を特定するスポンサー制度の代用できないか、検討されたい。長く利用されているベンチなどに、納税者のプレートを設置することで、市民意識が向上すると考える。	「(1)歳入の確保」に、個人からの寄付を含めたスポンサー制度の導入やネーミングライツの導入」を記載した。 合わせて、「計画」の「歳入の確保」による増収効果に、「ふるさと納税やクラウドファンディング」を記載した。
3-2	P2	持続可能な財政運営について	「公共施設(建築物)との関係を強化している。」は、説明の意味が異なるので修正すること。	「公共施設(建築物)とインフラの総合的なマネジメントを推進している。」に変更した。

# 訂正箇所一覧

No	該当ページ	項目	内容	回答案
3-3	P2	集約化・合同化による効率化について	「道路や公園の増加を抑制することがむずかしい。」との記述は、聖域を作ることになるので、「増加ニーズが予測される施設」とすべきである。	指摘に従って修正した。
3-4	P3	業務の見直し等によるコスト削減について	道路等包括委託の市民の効果を記入すべきである。実施することだけでは、意味がない。委託額を下げてしまえば、効果が出るのは当たり前である。(サービスが向上しているわけではないと考えている。)	「(4) 業務の見直し等によるコスト削減」に、道路等包括委託の効果として「道路等包括管理事業推進方針」の評価を引用しました。
3-5	P3	業務の見直し等によるコスト削減について	「(4) 業務の見直し等によるコスト削減」の「しかし、…」以下の文章、及び最後の分を見直すこと。	「(4) 業務の見直し等によるコスト削減」の指摘文章を削除し、見直した。
3-6	P3	市民との協働による管理について	施策実行の前に、市のインフラな現状を説明することを記載すること。	市民にインフラの重要性を理解していただいたうえで、協力いただく文章に変更した。
3-7	P3	市民との協働による管理について	「白書」に陥没の事例を示すこと。市民が目で見られるように、説明資料を用意すること。	「インフラの現在の水準が確保できなくなると、道路の陥没や橋りょうが落下する危険性があること」を記載した。
3-8	P3	市民との協働による管理について	市民通報システムの採用を検討すること。	「市をサポートする情報提供をもらえるよう努力する必要がある。」ことを記載した。
3-9	P3	ライフサイクルを通じた効率化について	車道舗装について、サイクル検討の評価や検討結果を記載すること。	「道路の舗装などのインフラ施設の点検結果を基に検討を行う」ことを記載した。
3-10	P3	管理水準の見直し	「(7) 管理水準の見直し」の前半と後半の文章を見直すこと。	前回の指摘を反映し、削除しました。
4. 資料5について				
4-1	P26	施策の取組による効果(要旨)	前半に施策実施による効果を追加する。	前半部分に効果を載せることで、インフラマネジメント計画の要旨の理解できるようにするため追加した。
4-2	P40	参考施策の追加	公園の占用料、使用料の適正化。	道路占用料と同じように検討をしたいと思い追加した。
4-3	P54	参考の追加	包括的管理委託に公園管理業務を含める場合の施策効果について。	公園を含めることで効果額がさらに見込めることを示すため追加した。

# 訂正箇所一覧

No	該当ページ	項目	内容	回答案
4-4	P68	施策の追加	「府中市街路樹の管理方針」にある取組を追加する。	2m未満の歩道にある街路樹の伐採施策を追加した。
4-5	P90	下水道の経費予測と管理計画策定の見直しについて	白書には見込みを載せているが、計画では見込んでいないことを再検討すること。計画時期が「計画」と異なってもコストを削減する管理計画を実現できることを、下水道部署で検討すること。	取り組みスケジュールの短期計画で「下水道施設ストックマネジメント計画」を策定することを追加した。
4-6	P92	管理水準の見直し	水準を下げた場合の例を追加すること。	舗装のMCI値を下げた場合の、補修経費の削減効果を例示した。
4-7	P93	白書と計画の関係性について	結果は、最後に示すとわかりやすいので、全体の構成を見直すこと。	P93以降に「3.5. 本計画による施策の効果」を設け、「歳入」、「歳出」、「歳入と歳出の合計」で構成する説明項目に変更してまとめた。
4-8	P104 P105	「予測結果」と「計画実施」の全体比較	施策による効果額。	白書の試算による予測結果と計画の施策の追加などにより、効果額が3.74億円/年に変わった。
4-9	P108 P109	「計画実施」と「実績」の全体比較	実績との比較による不足額	「3-8」により、不足額が下水道を除く場合は、3.43億円/年となり、下水道を含む場合は27.12億円となった。
4-10	P110	「計画」を実行しても不足する経費の考え方について	不足額をなくすために市が取組むことを記載すること。	「3.5.5.3. 「予測結果」と「計画実施」、「実績」の説明に、「不足」をなくすための市の取組」を追記した。
4-11	P113	計画期間と見直し期間の関係について	「計画」の見直し間隔を10年間とすること。	「4.3. 計画の評価と見直し」において、記述を「本計画」の柔軟な見直しを、定期的に行っていきます。」に変更した。
4-12	P115	参考資料	評価報告書の追加。	参考資料に、資料4の府中市インフラマネジメント計画評価報告書の抜粋を追加した。
5. 参考資料について				
5-1	説明資料	概要説明資料の作成について	「白書」と「計画」に関して、市民の理解が得やすいよう概要を説明する資料を作成して、提示すること。	素案を作成した。